令和５年６月１日
徳島県動物由来感染症対策検討会事務局

「令和４年度第２回徳島県動物由来感染症対策検討会」のとりまとめ結果
ワンヘルス推進にあたっての方針について

１　全体方針

- ワンヘルスとは動物由来感染症から「人の健康」を守るためには、「動物の健康」・「環境の健全性」も重要で、各分野の専門家が垣根を越えて問題解決を図る理念である。しかし、その概念を説明すると非常に抽象的でわかりづらい話となり、県民にはイメージしづらいため、具体的な事例を用いてワンヘルスを発信する。
- 医師、獣医師、環境科学をはじめとする専門家が分野の垣根を越えて連携し、問題を解決することを相関図にしてビジュアル化し、イメージしやすくする。
- これまでの徳島県の取り組みを紹介し、平成16年から開催している徳島県動物由来感染症対策検討会で医師・獣医師が情報交換する場ができており、すでにワンヘルスの基礎は徳島県ではできていることを県民に発信する。
- 若いころからワンヘルスという言葉にふれてもらうため、学校でパンフレット・グッズ・動画などの啓発資材を使って普及啓発を行う。

２　個別方針

（１）　ワンヘルス推進セミナー

- 医師、獣医師、環境科学をはじめとする専門家向けの内容だけでなく、県民にもわかりやすくワンヘルスを説明する会とする。
- 徳島県が徳島県動物由来感染症対策検討会を通してこれまで行ってきた「狂犬病マニュアルの作成や机上訓練」、「愛玩動物でSFTSが発生した場合の連携体制の構築」、「ジビエの病原体保有調査」などの取り組みを紹介し、人と動物の関わり合い方をわかりやすく説明する。
- 他にも、全国的な話題となっている新型コロナ、鳥インフルエンザや実際に県内で発生している動物由来感染症をテーマとして取り上げ、その病気とワンヘルスがどのように関連しているかを説明し、正しく恐れる方法やペットとの正しい接し方を周知する。

（２）　とくしまワンヘルス推進月間でのイベント

①　イベントテーマ

- 災害時のペットとの避難に備えて、災害現場で事前に知っておきたい・考えておきたい動物由来感染症対策
- 異常気象等で野生動物の生息する環境が変化し、野生動物と人・ペットが接触する機会が増えれば増えるほど、人・ペットで動物由来感染症の発生が増えることになる。その動物由来感染症の治療に抗生物質が不適切に使われれば、従来の薬剤が効かない薬剤耐性菌の発生につながる。こういった背景を一般の県民は知らないため、抗生物質を出してもらう

ために病院に行く人が非常に多い。薬剤耐性菌の発生につながる恐れのある抗生物質の乱用について説明し、県民の抗生物質に対する安易なイメージを払拭する。

- 江戸時代からツツガムシ病の退治を祈願して行われていた「虫送り」といった動物由来感染症に関する伝統行事をテーマとしてあげ、どうしてそういった伝統行事が生まれたのか、その背景を紐解いていき、歴史からみる昔からあった動物由来感染症対策をその地域の住民に再認識してもらう。
- 若い世代でアウトドア指向が高まっていることから、アウトドア時におけるダニ等の虫対策について説明し、若い世代に興味を持ってもらう。
- 生き物の魅力と不思議、共生のあり方に関する展示や小中高生が自主的にワンヘルスを学べるようなワークショップを開催し、ワンヘルスの考え方に触れてもらう。

② イベントの実施場所

- 地域の祭り、伝統行事、学校行事（文化祭・大学祭）でブースを出店

（３） ワンヘルス推進にあたっての啓発資材

① グッズ関係

- ペット飼育者・アウトドアを楽しむ人用といった対象別で啓発資材を分けて作成する。
- ペット用品に付随したものであれば受け取りやすい。
- すだちくんは子供から大人まで幅広い層に人気があり、知名度も高いため、すだちくんを活用したグッズが喜ばれる。（例：ワンヘルスのプレートを持ったすだちくんのぬいぐるみ）
- ワンヘルスをわかりやすく説明してくれるマスコットキャラクターを作成する。

② 動画

- 人の興味を引くには、1 分以上の動画は長すぎるため、1 分間動画を複数作成する。
- 人の記憶に残るものは非常に少ないため直感的にわかる簡単な内容にする。
- 人目線の内容になりすぎると、動物の健康も環境の健全性も重要というワンヘルスの醍醐味が失われてしまう。
- なぜ、今動物由来感染症対策が必要なのかをわかりやすく説明する。
- ショッピングモール、電光掲示板、学校などで配信し、多くの人の目に触れてもらう。

③ パンフレット

- 各種動物由来感染症に対する豆知識を掲載したものを作成する。